

令和元年度 学校評価のまとめ

■評価シートについて

今年度の評価シートは、昨年度前期末の提言(4項目)をふまえ、昨年度後期に評価シートを大きく改善したため、教育目標の視点は1点追加したが、評価内容は変更せずに実施した。

■平成30年度後期との比較

評価点：十分できている=4、おおむねできている=3、あまりできていない=2、できていない=1

	H30	R1	
I 理念・経営方針・重点方針	後期	後期	増減
学校の理念、及び基本方針の理解	3.1	3.2	+0.1
所属部・年次の経営目標の理解	3.2	3.2	0.0
勤務時間の適正化への理解	3.1	2.9	-0.2
教員としての資質向上	3.2	3.2	0.0
危機管理への理解	3.1	3.1	0.0
関係機関との連携	3.0	3.3	+0.3
II 魅力ある学校・特色ある学校への取組	後期	後期	増減
授業規律の確保	3.1	3.2	+0.1
授業力の向上	3.0	2.9	-0.1
特別支援教育への理解	2.9	2.9	0.0
「共生社会と人間」の運営	2.8	2.6	-0.2
「交流及び共同学習」の運営	2.9	2.8	-0.1
両校の取り組みの発信	2.6	2.7	+0.1
III 自尊感情の醸成	後期	後期	増減
学習意欲の喚起	3.3	3.3	0.0
部活動の充実	3.0	3.0	0.0
カウンセリングマインドの視点	3.3	3.4	+0.1
誇りを持たせる取組	3.3	3.3	0.0
生徒会活動への理解と支援	2.8	2.9	+0.1
地域貢献・ボランティア活動への理解と支援	2.7	2.8	+0.1

[自己評価]

昨年度と比較し、全体的に評価が大きく変わることはありませんでした。その中で、0.2ポイント以上変化があった項目が3点ありました。

- ・「勤務時間の適正化への理解」は昨年度より0.2ポイント下がり2.9でした。水・金曜日の定時退勤日にはおおむね定時退勤が徹底されてはいるものの、他の曜日に仕事量が増加し残業が増えるなどのしわ寄せが来ている結果だと思っています。今後は定時退勤日以外も勤務時間の適正化につながるよう、さらに仕事の優先順位を付け、適切に対応できるよう業務の見直しを検討していきます。
- ・「関係機関との連携」は昨年度より0.3ポイント上がり3.3でした。特別な支援や指導が必要な生徒に対して教師が一人で抱え込まず、普段からコーディネーター、キャンパスカウンセラーや外部機関と連携し対応する姿勢の現れであると判断しています。今後も、生徒への多面的な対応として、関係機関との連携を密にしていきます。
- ・「共生社会と人間」の運営は昨年度より0.2ポイント下がり2.6でした。本校は同一敷地にある特別支援学校と日常生活や学校行事、生徒会活動、授業(共同の学び)など様々な機会を通じて共に学び共に助け合い、豊かな人間性を育むとともに、ノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざしているにもかかわらず、2.6という数字に危機感を持っています。講座担当者は外部講師を招聘する一方で、様々な工夫を凝らした授業を実施しているにもかかわらず、教職員全体に活動内容が伝わっていないことが原因の一つだと判断しています。全教職員が本校の設立目的を再認識し、授業担当者任せにせず積極的に特別支援学校との交流を行えるような仕掛け作りを至急検討していきます。

以上の評価を充分考慮しながら、より良い学校づくりを目指して来年度は全教職員で協力し校務に取り組んでいきます。

[学校関係者評価]

- ・多部制単位制高校という様々な家庭環境の生徒が在籍しているなか、先生方は生徒に寄り添い教科指導や生徒指導並びに生徒の相談に乗るなど多岐にわたって頑張っていると評価している。
- ・自己評価にもあるように、特別支援学校との連携の中で生徒を育てていくことをもっと推進してほしい。難しいと思うがそれがこの学校の根幹をなすものであると考える。
- ・授業力の向上がわずかだが低下している。学校は授業がメインなので、生徒にとってわかる授業を行い、主体的に学ぶ工夫を今後も行ってもらいたい。